

## 成功を支えた国大化学会

第2回横浜国大ホームカミングデー実行委員長  
国大化学会会長 樋口修一郎（昭和35年2部応化卒）

### <第2回HCDは>

第2回横浜国大ホームカミングデー（HCD）は、昨2007年11月10日（土）に開催された。朝10時から午後3時半まで、常盤台キャンパス内には「いい顔」をした仲間が集い・語り・懇親した1日となった。担当した実行委員長である私が申すのも遠慮勝ちではあるが、第2回HCDは成功裏に終わったと思っている。

その理由の一つに、

- 国大化学会の貢献が大であったことが挙げられ、私としても大きな誇りである。このことを、会員の皆様にご報告し、関係者に御礼を申し上げたい。



### <推進体制は国大方式で>

まだ2回目のHCDを終えたばかりのことではあるが、このHCD遂行体制・方策には、

- 国大方式と言えるやり方で進めていることが、特色の一つである。その要点は、
  - ・大学と卒業生の共同開催であり、具体的に申せば、
  - ・基本資金は大学と3学系同窓会（教育系、経済・経営系、工学系）での150万円づつの拠出になる300万円であり、
  - ・約80名から成る実行委員会のメンバーは、教員・事務職員・3同窓会からの「5位一体」の混成部隊である。
  - ・主担当は輪番制で、第1回は経済経営系・富丘会が、第2回は工学系が、での推進であった。

	グループ・リーダー
禅 知明	講演・公開グループ
青木 大祐	企画グループ
加賀美 功	広報グループ
柿沼 弘之	集客グループ
辻 秀徳	懇親会グループ
古賀 義雄	電子録画グループ・リーダー
坂本 泰一	電子録画グループ
高橋 克己	庶務グループ

### <参加者数でも、萩原さんも>

11月10日の第2回HCDに当っては、Webによる事前登録制とした。

- 参加登録者総数は956人であったが、この内、工学部系は380人、国大化学会は101人と、存在感が大

### <国大化学会からは12人が>

第2回HCDの準備・検討に先立って、

- 昨年1月15日には、私が実行委員長を仰せつかることが決められての体制作りとなった。その為もあって、国大化学会からは下記の12人が実行委員となって、大変なご尽力を頂いたことが成功の原点であったことをご報告し、厚く御礼を申し上げたい。

<国大化学会からの実行委員>（敬称略）

樋口修一郎	実行委員長
松本 正和	副委員長、懇親会グループ・リーダー
山口 仁司	懇親会グループ
榊原 和久	工学部コーディネーター、講演・公開



萩原忠臣氏

であった。これは、役員各位の集客へのご尽力の賜物であり、

御礼を申し上げる次第である。

また、懇親会冒頭での乾杯の音頭は、

- 国大化学会顧問の萩原忠臣さん(電化・昭8年卒)が当日の最高齢参加者ということでのご指名となった。

萩原さんは、昨12月で97歳となられたが、現役の経営者であり、HCDにも名古屋からのご出席であった。本年も楽しみである。

#### <国大いいとこ発見デー>

今回のコンセプトの一つとして、

- 国大いいとこ発見デーを掲げ、これを受けての
- 学長による、<横浜国大はこんないい大学>

更に、これを受けての

- 各学部長による、xx学部はこんないい学部での構成とした。この辺については、皆さんのご意見を頂きたいものであり、それを第3回につなげて頂きたいところである。

#### <第3回HCDは>

本年に行う第3回HCDの実施に向けての準備が既にスタートしている。第3回HCDは、

- 教育系・友松会が主担当で、相吉 靖さんが実行委員長に

- 日程は、2008年11月15日(土)

とすることが決まっている。これから、準備・検討に拍車がかかってくるものと察せられる。ご関係者のご尽力と会員の皆様のご理解・ご協力が望まれる。

## 第2回横浜国大ホームカミングデーを振り返って

HCD 実行委員会副委員長

国大化学会執行役員

松本 正和(昭和45年応化卒)

2007年11月10日、今回のホームカミングデーも雨であった。参加者が減ると舌打ちしながら、8時の実行委員集会に間に合わせるべく早朝に家を出た。

集会後、仲間と共に私がリーダーを務める懇親会Gの会場、体育館に向かった。誰もいない会場は、白いクロスのかかったテーブルが整然と並び、大看板の下ステージが出演者を待っていた。昨日の喧騒が嘘のようである。

前日は体育館を会場に一変させるべく、床の保護シート貼りから入って、ステージ組立て、テーブル準備、備品の準備、クジ引きの準備、看板・掲示物の準備等々、7時まで戦場のような忙しさであった。私などは完全12時間の立ちっ放しで、当日を腰痛で迎えるはめになった。

八分通り出来上がった会場で、午後1時過ぎの懇親会開催まで、仲間の実行委員、食堂、業者が入り乱れての準備がスタートした。料理準備、クジ・景品準備、掲示物貼付、飾用の風船膨らまし、音響・照明の設置操作、出演者との直前打合わせ、司会陣と変更点すり合わせ等々、人数が多い分前日よりも凄まじい戦場になっていった。

ふと気が付くと、先頭を走っていた自分が遅れている。いや周りが自分たちで動き出したのだ。皆さんに任せて、たまり場を覗きに行く。これが会場外に出た唯一の機会であった。従って講演会等他の会場は全く知らない。

混雑を避けようと少し早めに開場したが、講演会が遅

れているらしく人の参集はゆるい。7割方集まったところで、若干遅れての開会となった。

クス玉から始まって、樋口実行委員長挨拶、最長老の我らが萩原さんに乾杯の音頭をお願いし、宴は始まった。その頃にはさしもの広い体育館も人人で埋まった。

マリンバとピアノの合奏を背景に、至るところで懇親の輪ができ、談笑が起り、音楽はほとんど掻き消えた。

ステージ脇に陣取り、会場とステージへの指示で忙しいはずの私であったが、もういいだろうと、人の海の中を左手にビール、右手にカメラを持って泳ぎ歩いた。国大化学会の面々も多く、皆笑顔で握手を求めてくる。

ステージは学生の混声合唱からプロのジャズバンドへと移り、ステージ前のいす席に陣取りジャズを楽しむ人たちも多い。

終盤、目玉の国大〇×クイズは司会陣の頑張りもあって大いに盛り上がり、何十名かの人々が景品をゲットした。優勝者には、無理を言って学長から景品を渡して頂いた。

あっという間の2時間であった。最後まで残っていた全員でみはるかすを斉唱し、来年を約して閉会となった。

その後片付けのドタバタと、5時からの打ち上げを経て、長い長い一日を終えた。

上記懇親会を最後に、我々工学部系同窓会が幹事を務めた第2回のホームカミングデーは、心配した雨の影響もたいしたことなく、皆さんの感謝の声、笑みに包まれ成功裏に終えることが出来た。

これは、80名を越える実行委員と大学当局の半年にわたって積み上げてきた協働の賜物ではあるが、特に我が国大化学会の、樋口委員長を筆頭として12名もの実行委員を出し、実動を重ねて来た貢献度は大きい。大いに誇って良いと思う。

また、参加人員の伸び悩みに苦しみ、各種ルートで国大化学会の会員に働きかけた結果、100名を超える参加を頂いた。これはなんと全体の1割であり、工学部では生産工学と並びトップである。参加された皆様、ご助力いただいた皆様に心からお礼申し上げたい。

参加総人数	956名	うち懇親会参加者数	574名
教育系	306名		219名
経済経営系	152名		102名

工学系	380名	191名
化学系	101名	60名
生産工学	105名	58名

私に関しては、3月に関わってから此の方、会議、打合わせ、折衝で月平均10回前後の大学、弘明寺行があり、1500件を越える電子メールのやり取りがあった。大変なエネルギーであり、実動はもうこれきりにしたい。

しかし、その反面、上記成果とは別に、懇親会G仲間の、実行委員間の、大学事務局、先生との人脈という得がたい果実が手に入った。この点は素直に喜びたい。

ホームカミングデーというものを通して、大学の発展に少しでも寄与したいと考えればこそ引き受けた実行委員である。今後会員の中から私達の後継者が出て、この行事を大きく、大きく成長させて頂きたいと願うこと切である。

## 第2回HCDの運営に携わって

国大化学会副会長 禅 知明(平成元年物工卒)

平成19年11月10日(土)に第2回ホームカミングデー(HCD)が横浜国立大学常盤台キャンパスにて開催されました。HCDは珍しいことではなく欧米や日本の私立大学では良く知られた行事です。卒業生、教職員、家族を含めた親睦会であるとともに卒業生に現在のキャンパスや大学の最新の研究や教育活動等を紹介する場でもあり、本学では平成18年度より開催することとなりました。

とはいっても初めてのことで、何をどう進めるのか準備から大変でした。卒業生をメインとするので同窓会中心の実行委員組織で運営することとし、第1回の平成18年度は社会科学系の同窓会(富丘会)、第2回の平成19年度は工学部連合同窓会、第3回の平成20年度は教育系の同窓会(友松会)、その後はローテーション(?),が主導することになりました。

今回の第2回は工学部連合同窓会が主導であり、国大化学会の樋口会長が全体の実行委員長となり綿密な準備から開催にこぎつけました。

全般的なことや当日の様子は大学のホームページや配布物に既に紹介されつつありますので、次のホームページをご覧ください。

<http://homecoming.ynu.ac.jp/>

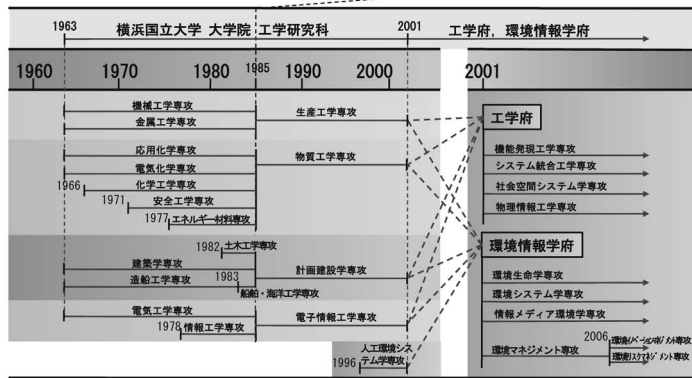
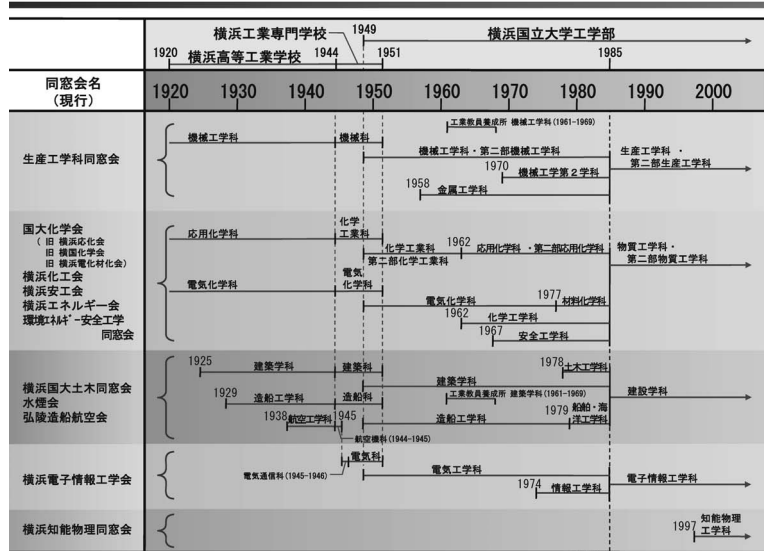
この場では私自身の実行委員としての役割について述べることにいたします。

さて樋口会長が実行委員長となったため、本会の卒業

生、教員から多くの実行委員が参画し、私も途中から人員補強として①「講演・公開グループ実行委員」に加わりました。準備が進むにつれ、(必然的ではあるが)1つの仕事が他のグループの担当と複雑に絡むようになり、他グループとの連携、密なる連絡が必要となり、私は②「連絡員とグループリーダー(本会・榊原教授)の補佐」も務めることとなりました。

実際はこの「連絡」なる業務は至極大変で多量のメールの往来に苦慮することになり特に9~11月開催日まではHCD業務にかなり携わりました。とはいっても通常の業務はあるわけで、これは他の実行委員も同様、みなさん大変だったわけです。私の場合は学内にいることもあり、研究・教育は日程とともに進めていかなければならないので打ち合わせの時間のやりくりは大変でした。

講演・公開グループは講演会に関する全体のとりまとめ運営を担当しますが、同時に工学部主導の講演会と公開行事の実行委員の役割もすることとなり、全体の実行委員の他に工学部選出の③「工学部公開実行委員」の担当にも。ここでは工学部の公開行事の特徴を分かりやすく示すために、講演会=「聴く工学部」、研究ポスター展示と説明=「観る工学部」、研究のデモンストレーション=「動く工学部」、弘明寺の懐かしい写真展=「懐かしむ工学部」の4本立てで行こうと計画し、会場を工学部講義棟として準備・実施しました。



2007 HCD 工学部沿革

横浜国立大学 工学部 物質工学科 ホームページ 2007  
http://www.bsk.nyu.ac.jp/

**物質工学科 コース 学びの分野**

**物質工学科 コース 学びのシステム**

**他分野にわたる多彩な学びの研究 工学部物質工学科 (工学研究院・環境情報学院)**

**物質工学科 化学コース**

**物質工学科 ハイテクコース**

**卒業後の進路 平成18年度**

**平成20年度物質工学科入塾**

**全国高校生化学コンクールの活躍**

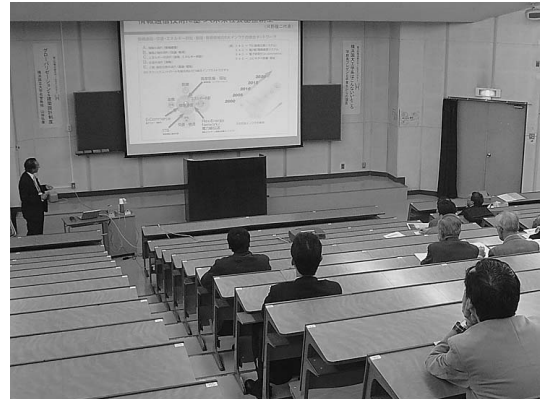
2007 HCD 物工紹介ポスター

私は④「懐かしむ工学部」の担当にもなりましたが、この「懐かしい弘明寺の写真」を集めるのには大変苦労しました。学科の事務にはほとんど残っておらず、大学の事務に残る広報関係の書類にはこれまで発表された「正式な」写真が多く、スナップ的な写真はなかなか見つかりません。しかし工学部の各同窓会事務室に少しずつ残る卒業アルバム等や教員のご協力、卒業生からのお申し出により開催日に近くなるにつれてかなりの写真を集めることができほっとしました。本会の先輩からも画像をご提供いただき誠に感謝、感謝です。

さらに各学科（現在の5学科）の公開行事を遂行すべく⑤「物質工学科 HCD 担当」となり学科紹介のポスターを教員の助けを借りて作成しました。上記の役割と並行していたのでいつも使っているパソコンもフル稼働でポスターなど容量が大きいファイルを扱うと命令が処理しきれないのかしばしば動かなくなってフリーズしてしまい、ハードディスクが壊れないかと冷や冷やしながらバックアップをとりつつ何とか完成に漕ぎつけました。ポスターはA0判と大きいので当日はA3縮小版も用意し来場者に配布しました。学科紹介は大切なことでこのポスターをアレンジしたものを高校に配布したりと



観る物質工学科



聴く工学部 学部長プレゼン



懐かしむ工学部 弘明寺キャンパス俯瞰



ハイビジョン中継 レクチャーコンサート



懐かしむ工学部 会場

その後活用されています。(前ページ掲載:実物は多色刷り)

工学部会場の様子の一部を上の写真に示しました。

個人的には非常に大変でしたが、実行委員としての役目は果たせたと自分では思っています。しかし時間が少なかったこともあり、上記の①～⑤を受け持ったため、他の実行委員や教職員にとって仕事の分担がわかりにくくなり、私自身もあたふたする結果となってしまったので、仕事を分散させて他の教職員が仕事しやすいように適任者に任せることも必要だったと反省し、この点は実

行委員会の方へ反省の弁を伝えさせていただきました。今後の実行委員会の糧になればと願っています。

最後に余談ですが、このHCD当日にも紹介・販売されていましたが、横浜国大もいろいろなグッズを販売するようになりました。Tシャツや文具といったものから最近はお茶碗、カップラーメン、日本酒、ワインなどもあります。こちらからご覧になれます。

<http://www.jmk.ynu.ac.jp/gakugai/ynu-pr/goods.html>

このホームカミングデー(HCD)は、全て卒業生、教職員や関係者のボランティアベースで成り立っているので、少々の混乱はあっても長い目で見て、実績を作りあげていければいいと思います。卒業生の皆さんに喜んでいただけるようになることが幸いですが、これは卒業生の皆さんの行事であるので、参画、参加していただくことが何よりですし、今後是非お気軽にHCDにお出かけください。

前ページにこのHCDで展示した工学部公開実行委員の生産工学科佐藤先生作成の「工学部・大学院 沿革と同窓会」を掲載しておきます(実物は多色刷り)。学科がどのように変遷してきたのかが分かりやすくなっています。間違い等に気づかれましたらぜひ同窓会事務局までご連絡ください。

## HCD に携わって

国大化学会会誌・名簿 G 青木 大祐 (平成 20 年物工卒予定)

こんにちは、国大化学会同窓会学生代表の青木大祐と申します。

今年から国大化学会が発足し、同時に学生役員という役職も初めて取り入れられました。初期の役員として担う役割は大きなものでしたが、初期の役員ならではの経験も沢山させていただきました。国大総会、役員会、会誌・名簿グループの集まり、そしてホームカミングデー(以下 HCD)。まだ学生という身分であるので、普段教壇で御講義をなさる先生方や、化学系の OB の方々と同じ席で会議をするということが普通の大学生活の中では滅多にない事で、ふと我に返るたび「責任のある、大切な役割を私たちに任せてくれているのだ」と感じました。また同時に学生と国大化学会を結ぶこの役職の大きな責任を痛感しました。

### <HCD に携わって>

今年、学生役員としての時間を過ごす中で HCD への参加は一つのメインイベントとなりました。私は企画グループの一員として活動に携わってきましたが、約半年間作り上げた企画が成功して終わった時、安堵感と大きな喜びが沸きあがりました。

ホームカミングデーとは何か、恥ずかしながら半年前の私はその目的もさることながら存在すら全く知りませんでした。だから企画会議を行う中で、「学内でマイクロバスが循環する」、「本部に他会場の様子がモニターで写る」、「提携企業コーナーが設けられる」、「現在活躍されている OB の方をお呼びしての講演がある」、「体育館を使っての懇親会がある」などの事実を知り、全学部によるこんな大規模な催し物が学校祭以外にあったのかとただ驚くばかりでした。働いていた第一食堂での「受付、たまり場」でも常に楽器を使った演奏会が開かれており、働いていた私ですらその場の雰囲気を少なからず楽しむことが出来ました。あいにく当日は雨模様で思うよ

うに客足が伸びないのではないかという不安もありましたが、熱心に来てくださった OB の方々、また講演のために来てくださった講師の方のおかげで、盛大で内容の濃い HCD になったと思います。

### <委員として感じたこと>

一学生委員として強く感じたこと、それは「学生委員だからといって、学生とは見られない。一委員として見られて、対等である」ということでした。厳粛な雰囲気の中で私自身恐縮してしまい、また自分は学生だからとの甘え心によって発言は少なめでした。しかし会議が盛り上がりを見せるところで、「青木君は意見があるか」「学生の視点からどう考えるか」「学生として何か特別なことは出来ないか」と度々意見を求められる事がありました。先生や国大の先輩方の作り上げた熱意のある場の中で、私も「学生として何か出来ないか」と身を引き締めて発言が出来たと思います。これは HCD の役員としてのみならず、国大化学会においても同様のことが言えます。

### <最後に>

私は企画グループとして関わる中で「HCD を共に作り上げているのだ」という達成感を得ましたがそれ以上に、「OB の方とのつながりが持てた」という思いも持ちました。実際我々学生は機会があるにせよ、やはり OB の方と出会い、話を伺う機会は少ないのではないのでしょうか。今回私は多くの OB の方と関わりを持つことができましたが、これは役員だから出来たという事ではなく、HCD に参加する事で誰もが実現できると思います。その意味で HCD が OB のみならず、学生にも意義のある催し物です。今年役員として HCD へ参加しましたが、次回は訪問者として実際に足を運んでみたいと思います。

## 第2回ホームカミングデー参加によせて

鈴木 茂（昭和22年電化卒）

誰も加齢になると現在の事より、昔の事の方がよく覚えていて、昔話の方に力が入るお方がよくあります。

同級生などが会すると決まってその昔話に花を咲かせ、懐かしい一時を楽しむのではないのでしょうか。私などもその例に漏れず、血気盛んな工専時代をよく思い出し当時の仲間と会いたくなります。

私のその入学当初は未だ戦時中とは申せ、学校行事の学校祭や横浜高商との野球定期戦などが行われていた時で「この感激を味わわない者は本校の学生ではない」とまで、言われていた時代で大いにその気分を謳歌したものです。

しかしその後急速に戦果が悪化し、戦時色濃厚となり他校学生には学徒動員令が下り、校舎を去り軍需産業や戦場等へ、そしてまた本校も早期卒業となり卒業後は同様その様な職場・戦場等に出向いたものでした。

その頃からは日本本土の制空権も失い、工場地帯の爆撃や主要都市住宅等も焼夷弾により消失、敵国の思うがままとなり、勝つまでは我慢しようという国民の意力も失い、第2次世界大戦も昭和20年8月15日遂に国民はこの負け戦に涙を飲んだのでした。小生もそれを工専2年の夏に体験し、その後の横浜は米軍の占領基地として市街地の殆どが専有され、忽ちに建設用機械の操業により整地され、見るみる内に一大米軍基地が建設されました。全くその仕事の手早さには我々一同驚いたものでした。その後多かった川筋も埋め立てられ自動車道に変わり、現在の道姿となったものと思います。

その後少しずつ土地の返還があり、横浜市民の絶大な協力によって現在の姿となったと聞いております。

また我々の卒業期は終戦直後の事とて工業関係の就職先は殆どなく、郷里へ戻り農事の手伝いなど仕事のある者は幸運者で私もその一人でした。その後その関係先の学校教師として定年まで約40年勤めましたが、工専を卒業してからは早60年も経ちました。世も、また横浜市の町も全てが進化した感じで、昔の面影は少なく「正に浦島太郎物語」です。未だ母校は弘明寺にあるような



気がして、国大はアチラと言われても何ともピンと来ない有様です。しかしこの歳まで来てしまっても、何時までも母校を思う心は変わらず、新しい時代の母校の発展ぶりを少しでも見聞きしておきたいと思い、今回の催しごとに参加しました。当日は天候にはあまり恵まれない日でしたが、参加された方々はその意をくみ、楽しんでおられた様でした。懇親会も最後まで楽しんで来ましたが同年齢層の方々が少なく何か淋しい思いでした。

それと我々弘明寺校舎に通学した当時の、工学部の卒業生の一人として思ったことは、以前は一人一人が自覚を持って自分を律して行こうと指示してくれたいわゆる「シンボル」的な存在の『名教自然』碑が移転先の立派な学舎の奥まった森の中に、ひとり寂しげに建っていたことが、何とも言えない思いでした。今後のわが国の発展の為にも、またかつての横浜工専の意気込みを示すにも、もっと目についた処の方がと思いました。

今後又この様な機会には先輩達も多く集まり、後輩の方々をも励ます事が出来たら、また意味が拡大するのではと思いました。

では誠に勝手な事を申しましたが、今後の横浜国大の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

どうも有り難うございました。

## ホームカミングデー (HCD) に参加して

藤平 正氣 (昭和 44 年応化卒)

### はじめに

国大化学会の発足、総会や HCD の盛会、会誌の発行等諸活動の順調な立上げに対し、ご尽力された同窓会役員や卒業生、教職員や在校生、大学の関係各位に先ずは謝意を表します。昨秋から今春にかけて不幸が重なり、横浜応化会活動では有終の美を飾れず申し訳なく、心残りの半年間となりました。皆様方からの激励をいただき、やっと、前向きな諸活動を思い起す心境を取り戻してきました。

同時に、本年 9 月末、二度目の定年を迎え、“後生畏る可し”と“ご恩返し連鎖を起す”ことが、我々熟年者にとって、従前にも況して人生の重要なテーマであると再認識した次第です。諸活動の対象や取組みのレベルは、走りながら考える、拡げたり絞込みたり上げていく、そして、参加する支援する分担する主宰することになるのでしょうか？

第 2 回 HCD の印象を参加見聞の流れに沿って取り纏め、以下にエールを送ります。

### 11 月 10 日の朝 8 時

今年も雨降り、12~15℃、ここ数日より 4、5℃低く肌寒い、風は弱いのが救い。このような土日は在宅で、普通は雨読？ テレビ？ のんびりになるのだろうか？ 決めていたので出発、横浜駅西口からの送迎バスは有難い。要所での立ちん坊、在校生？ 雨に濡れてのご案内、お世話になりました。彼らは、講演会や懇親会に参加できたのでしょうか？ バス停待ちが無く、出だしでほとんど濡れず、助かりました。降車時のカンパにも気持ちよく応じることができました。

### 第 1 食堂での受付

9 時頃、目の前に着いた直行バスから受付に駆け込んだ。入学式を思い出すような現場お世話で歓迎され、誰しも“こんなに早くから準備されている、来て良かった！”と思ったことでしょう。同時に、大学の近況を伝える沢山の紙資料をいただきました。電子媒体は瞬時性と活用性、紙媒体は保存性と総覧性で、それぞれ大切な情報源と思います。住宅リフォーム会社や自動車会社の商売参加も活気を提供していました。

### 学長基調講演

教育文化ホールへ移動。“横浜国立大学はこんなにいい大学”というタイトルで、見やすい資料に基づき、歴史伝統、学風環境、研究と教育の実践と連携、そして将来について、飯田学長のお話を拝聴しました。地域や企業とのパートナーシップの維持発展、開放性と国際性に富んだ



活動が、広く社会に評価されることを期待しています。

### 講演会 (プレゼンテーションや公開・見学)

ここからは 15 の講義等から組合わせて 2 つを選択することになる。参加希望催事の事前申込みに従って、小雨の中を工学部講義棟へ移動。関心があるテーマが同時期、会場の移動時間が必要、パート 1 の始まりが遅れパート 2 の聴講に支障を来す等欲張れないのが残念でした。国分泰雄工学部長による“理工学系はこんないいところ”、3 氏卒業生による真摯な仕事体験、そして、山田弘康名誉教授による“グローバル化 VS 建築設計制度”を聴講しました。

ポスター展示を見学できず、空しく？ 後片付けをしている在校生の脇を通り抜け、急ぎ懇親会に向かいながらせっかくの準備に申し訳なく感じました。

### 懇親会

雨は止んだ、体育館へ移動。おふたりの恩師、国大化学会の 10 氏とお会いし、お話しもできました。広い体育館をほぼ埋める参加者、前方で音楽ステージに合わせる人達、女性在校生の張り切って元気な司会、皆さんのゲームへの参加意欲等、全体的な盛り上がりは何故か安堵しました。あちこちに学部や学科？ 研究室？ 同期？ 部活動？ ごとの輪ができていました。

今回は、研究室仲間や学科同期生に声をかけて参加しよう、と思いました。

### おわりに

私の HCD への関与は、“参加レベル”が続くでしょう。いつか、“はじめに”で掲げたテーマに対する私の実践をご紹介できれば、と思います。

“横浜国立大学ブランドグッズ”から、“横浜国大ペロンチーノ風味ラーメン”を購入、家族で賞味しました。“カラッチーノ”スープ味は好評、デザイン・容量・値段を評価、カップ壁にまとわりついたパセリやバジルは不評でした。YNU 絵葉書“新しい潮流へ”も購入しました。和みの話題を提供する商品達を面白い企画と歓迎しています。(平成 19 年 12 月 10 日 記)



